

団体名	一茶庵 岡山支部	代表者	赤松 京	記載者	赤松 京
所在地(市区町村名のみ)	岡山市北区				
活動目的	煎茶文化の豊かで奥深い世界を普及するため				
団体の紹介	<p>昭和62年1月、岡山の地にて文人煎茶普及に尽力した赤松可彬没後、一茶庵岡山支部という形で設立される。文人煎茶普及活動に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5年毎の記念茶会 協賛茶会を通して煎茶文化紹介 ○ 岡山県煎茶道連盟事業の煎茶普及活動に参加 ○ 岡山県立美術館ワークショップ、及び、学校と美術館活性化事業参加 ○ 後楽園「和の学校」への協力 ○ 研修会 研修旅行にて研さん 				
助成を受けての活動内容	<p>平成28年4月3日 ルネスホールにて一茶庵岡山支部30周年記念煎茶会を開催した。 日常から心を解き放つ、煎茶文化の愉しみの世界の一端を386名の人々に紹介した。</p> <p>写真1 1階ホール入り口 軸「明珠在掌」 宝物のような豊かな世界がすぐそばにありますよというメッセージを投げかける。 「不老長春」の松とバラを活けて寿ぎの思いも。</p> <p>写真2・3・4 1階ホールを屏風で仕切り、【玉露を愉しむ席 6卓】 軸「桃花流水」 李白の詩句より青い山、碧山に心の旅をして、甘い玉露の味わいのなか桃源郷に遊ぶ心地を体感。五感を通して愉しむ世界。</p> <p>写真5・6 1階ホールを屏風で仕切り、【雁が音を愉しむ席】 軸「墨蘭図」 屈原という高潔な文人に思いを重ねる。大明竹に心の塵を払い、文人の友七絃琴の音に心を洗い、内なる自分自身をもみつめる世界。 雁が音の苦みの絡んだ味わいに情感を重ねる世界。</p> <p>写真7・8 2階金庫棟【点心、酒亭席】 「烟霞に茶を煮る」という、麗らかな春日の中自然の中で愉しむ気分を体感する世界。</p> <p>今回は玉露と雁が音の茶葉を使い、こだわりの茶技茶法のいくつかを紹介し、奥深い煎茶の愉しみの世界を拙いながら精一杯発信した。</p>				
助成を受けての成果	<p>386名の人々に煎茶文化の愉しみの世界を発信することができた。 お運び頂いた多くの方々には煎茶会は初めてという方も多く、皆様から嬉しい反響を頂いている。 幕末から明治、大正と煎茶文化の力強い時代の空気を感じるルネスホールにて開催でき、助成して頂けたことをありがたく感謝している。 新たな煎茶文化普及活動ができたと思う。</p>				
今後の活動の課題点	<p>お茶がペットボトル入りのお茶となってしまう危機を感じる。 煎茶文化は日常の煩わしさから自ら心を解放し、豊かな自分自身を創っていくかけがえのない伝統文化である。 この文化を支え次代に継承していく仲間を増やしていかなければならないと思う。 また心を病む現代人、若者の魂を救い、人間を輝かす貴重な文化でもあり、是非社会への浸透を頑張らねばと思う。 多方面からの支援をお願いしたい。</p>				
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)	〒700-0823 岡山市北区丸の内2-10-8 一茶庵岡山支部 (086-223-2773)				

※ このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。
A4用紙1枚程度におまとめください。(他の報告書との重複可)
写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。

写真1



写真5



写真2



写真6



写真3



写真7



写真4



写真8

